



iOS への簡単な展開

FileMaker How To Guide

目次

FileMaker How To Guide について.....	3
展開オプション	3
オプション 1 – iOS デバイスに転送する	3
オプション 2 - FileMaker Server または FileMaker Pro でホストする	5
オプション 3 – デバイスとホストで同期させる	8
まとめ	8
著者について	9



FileMaker How To Guide– iOS への簡単な展開

FileMaker Pro データベースアプリを iPad および iPhone に展開するベストプラクティス

このガイドは、FileMaker Pro データベースアプリを FileMaker Go for iPhone または FileMaker Go for iPad で使用する場合は、ベストプラクティスの概要を説明したものです。

展開オプション

FileMaker Pro データベースを iPhone と iPad のユーザーが利用できるように展開するには、主に次の 3 つの方法があります。

1. **iOS デバイスにファイルを転送する** - データベースファイルをデバイス上に転送し、ローカルのファイルとして利用します。
2. **FileMaker Server または FileMaker Pro でホストする** - データベースファイルを FileMaker Server または FileMaker Pro をホストとして共有し、iOS デバイスからアクセスし、操作します。
3. **データインポートを用いて同期させる** - データベースファイルを FileMaker Server または FileMaker Pro でホストしますが、ホストされたファイルとローカルファイルの間で、データインポートを用いて同期をとり、ローカルにアクセスします。

注: このガイドでは、読者が展開したいデータベースをすでに FileMaker Pro で作成していること、またデバイス上に FileMaker Go のインストールが完了していることを前提としています。

オプション 1 – iOS デバイスに転送する

FileMaker データベースファイルを iOS デバイスに転送することによって、そのローカル上のファイルにアクセスできるようになります。ファイルは iOS デバイス上に保存されるので、ネットワークを介して、ホストされているファイルに接続する必要はありません。

以下の手順に従って、FileMaker データベースを iTunes または E メールを用いて転送することができます。また上級編として、デバイス上にすでに展開されているファイルを用いて転送する方法を紹介します。

iTunes を用いて転送する

この方法は転送するファイルサイズとして、8 GB までのファイルが推奨されます。

1. iTunes を開き、デバイスをコンピュータの USB ポートに接続します。
2. デバイスの [App] タブで、[ファイル共有] の欄までスクロールダウンします。
3. [App] パネルで [FileMaker Go] をクリックします。
4. [FileMaker Go の書類] パネルの下部にある [追加...] ボタンをクリックします。
5. 該当するファイル (1 つまたは複数) を選択し、[開く] をクリックします。ファイルは自動的にデバイスにアップロードされます。
6. または FileMaker ファイルを、コンピュータから [FileMaker Go の書類] パネルにドラッグすることもできます。その場合も、ファイルは自動的にデバイスにアップロードされます。
7. アップロードが完了すると、指定したファイルは FileMaker Go の [デバイス上のファイル] のリストに表示されます。

E メールを用いて転送する

事前の確認事項として、使用しているメールプロバイダーの、添付ファイルのサイズ制限を確認してください。



FileMaker データベースファイルをメールに添付し、そのメールを、デバイス上で設定されているアカウント宛てに送信します。

1. デバイス上で、メールを開きます。
2. 添付されたファイルをタッチし、アクションダイアログで[FileMaker Goで開く]を選択します。ファイルが開き、[デバイス上のファイル]のリストに表示されます。

上級ユーザー向け – デバイス上に保存されている FileMaker ファイルを介して転送する

この方法は、上級ユーザーが、WiFi または 3G など、ネットワーク接続方法に対して適切なファイルサイズのファイルを転送する場合に適しています(3G 接続は大容量のファイルを転送するには不安定な場合があり、また各キャリアとのデータプランなども考慮する必要があります)。FileMaker のオブジェクトフィールドには、4GB のサイズ制限があります。

1. FileMaker Server または FileMaker Pro によってホストされている別の FileMaker ファイルのオブジェクトフィールドに、ファイルを挿入します。
2. ホストされているファイルを FileMaker Go で開きます。
3. オブジェクトフィールドの内容をエクスポートします。そのファイルはデフォルトで iOS デバイスの、ドキュメントディレクトリに保存され、[デバイス上のファイル]のリストに表示されます。

その他の転送方法

iOS デバイスではさまざまなアプリケーションを用いて、ファイルをブラウズし、管理することができます。例えば、DropBox、Box.net、DiskAid などのアプリケーションを用いてローカル上のファイルを閲覧する方法です。(インターネットでその他のアプリケーションを検索してみてください。ただし一部のアプリケーションは、デバイスによって使用できないものがあります。)これらのアプリケーションを用いて、FileMaker Pro ファイルを FileMaker Go アプリのドキュメントディレクトリにアップロード、ドラッグ、またはコピー&ペーストすることができます。FileMaker Go では、そのファイルが[デバイス上のファイル]のリストに表示されます。

さらに、Web ページ上のリンクを用いて、FileMaker データベースファイルを iOS デバイスにダウンロードすることもできます。

この場合も、どの方法でファイルをダウンロードするか決めるにあたって、ファイルサイズ、接続形式、各キャリアとのデータプランを考慮してください。

展開されたファイルにアクセスする

FileMaker データベースファイルが転送されたら、以下の手順に従って FileMaker Go からアクセスすることができます。

1. 各自の iOS デバイス上で FileMaker Go を開きます。
 - iPad では、すぐに[ファイルブラウザ]が表示されます。
 - iPhone では、ボタンをタップしてファイルブラウザを開きます。
 - iPhone では、[デバイス上のファイル]または[最近使ったファイル]のいずれかをタップします。
2. iPad / iPhone プラットフォーム上で、ファイルをタップして開きます。
3. アカウントとパスワードが設定されているファイルの場合には、ログインダイアログが表示されます。アカウント名とパスワードを入力して、ファイルにアクセスします。

URL を用いてファイルにアクセスする

FileMaker Go では、fmp プロトコルを使用することができます。このプロトコルを利用すると、ユーザーは URL を入力するか Web ページ上のリンクをクリックして、ローカルファイルやホストされているファイルを開くことができます。たとえば、

FMP7Script://~/Client.fmp7?script=ListClients という形式の URL では、「ListClients」と



いう名前のスクリプトをもつ Client.fp7 というファイル名の (iOS デバイス上にある) ローカルファイルが開きます。

さらに、fmp プロトコルを使用して、ホストされているファイルを開くこともできます。“fmp7://HostNameOrIPAddress/HostedFile.fp7” という形式の URL は、ホストされているファイルを FileMaker Go (またはデスクトップコンピュータ上の FileMaker Pro) で開くコールとして、ブラウザによって読み取られます。

fmp プロトコルの詳細については、FileMaker ヘルプおよび FileMaker ナレッジベース (<http://filemaker-jp.custhelp.com/>) の記事 #9198 を参照してください。

オプション 2 - FileMaker Server または FileMaker Pro でホストする

FileMaker Server または FileMaker Pro で FileMaker データベースをホストすると、FileMaker Go を介して iOS デバイスからリモートアクセスできるようになります。この方法を使用する場合は、Wifi での接続が適しています。また、以下の 2 点を考慮すれば 3G 接続でも快適に使用することができます。第 1 は、ファイルが FileMaker Go での使用に最適化されていること、第 2 は各キャリアとのデータプランがデータ転送量に適していることです。さらにこの構成では、3G ネットワーク接続については Wifi での接続ほど安定性が高くないということも、要素として考慮する必要があります。(ソリューションの最適化の詳細については、“*FileMaker How To Guide: 高速な iOS データベースアプリをデザインする*”を参照してください。)

FileMaker データベースをホストするには、一般的に次の 4 つの方法があります：

1. **FileMaker Pro 上でホストする** - FileMaker Pro でホストされているファイルに、Go から接続する場合、iOS デバイス上に接続したファイルが保存されることはありません。FileMaker Pro をホストとして接続できるユーザー数は最大 9 なので、このオプションは小規模なローカルネットワーク (LAN) に推奨されます。
2. **FileMaker Server 上でホストする** - FileMaker Server でホストされているファイルに、Go から接続する場合、iOS デバイス上に接続したファイルが保存されることはありません。この方法は、LAN および WAN のどちらの展開にも、また VPN アクセスにも、推奨されます。3G 接続にも適していますが、上記の点 (ファイルの最適化、データプラン、3G ネットワークの信頼性) を考慮してください。
3. **複数サーバーを介してホストする** - FileMaker Go からファイアウォールの内側にホストされているファイルへのアクセスをする場合、2 つ以上の別サーバーで管理されたファイルでソリューション全体を構成することができます (ファイアウォールの内側にホストされた FileMaker Server にある「マスター」ファイルと、ファイアウォールの外側にホストされた FileMaker Server にある「外部」ファイルです。この外部ファイルは「マスター」ファイルと同一または同等のファイルで、マスターレコードのサブセット (部分集合) で機能するよう設計されたものです)。
4. **部分的にホストする** - この方法も 2 つ以上のファイルで構成されます (FileMaker Server によってホストされている「マスター」ファイルと、iOS デバイス上に保存された同一のファイルまたは「オープナー」(マスターファイルを開くための) ファイルです)。iOS デバイス上に展開された FileMaker ファイルでは、ホストされているファイルを開くためのスクリプトを使用することができ、それによってリモートユーザーがホストされたファイルに簡単に接続できるよう設定できます。さらに、ホストされているファイルと都合のよい時に同期をとるオプションを用いれば、FileMaker Go のユーザーがホストされているファイルにまったく接続しないで作業できるよう、ローカルに展開されたファイルで構成することができます。

ホストされるファイルを構成する

FileMaker Pro データベースがホストされるためには、次の 2 段階の手順で、共有の構成にしておかなければなりません。



1. ホストされているファイルにアクセスするアカウントに関連付けられた各アクセス権セットに対し、FileMaker ネットワークを介したアクセスを許可する fmapp 拡張アクセス権セットを追加します。アカウントとアクセス権の管理は、[ファイル]メニュー > [管理] > [セキュリティ]....で行います。
2. [ファイル]メニュー > [共有] > [FileMaker ネットワーク]パネルで、共有を可能にします。

重要: ホストされているデータを保護するために、必ず適切なセキュリティ対策を実施してください。FileMaker ヘルプで「データベースの保護」を検索すれば、FileMaker のセキュリティについて、さらに詳しく知ることができます。

ホストオプションの実装

FileMaker Pro でファイルをホストする

FileMaker Pro でファイルをホストするには、上記のようにファイルを準備してから、デスクトップコンピュータ上の FileMaker Pro でファイルを開きます。その後 FileMaker Go を用い、ネットワーク上でファイルを開きます(下記を参照)。

FileMaker Server でファイルをホストする

ファイルをアップロードするには、FileMaker Server Admin Console を使用して、次の手順に従います。

1. コンソールの左下にある関連タスクパネルから[データベースのアップロード]をクリックします。
2. データベースアップロードアシスタントを使用して、FileMaker Server 内のフォルダを選択して、該当するファイル(1 つまたは複数)を選択しアップロードします。
3. [データベース]パネルで、選択したデータベースファイル(1 つまたは複数)が、開いていることを確認します。
4. FileMaker Pro または FileMaker Go を用い、ネットワーク上でそのファイルを開きます(下記を参照)。

複数のサーバーを介してファイルをホストする

ファイアウォールの内側にある FileMaker Server に、「マスター」ファイルをアップロードします。次に、ファイアウォールの外側にある FileMaker Server に「外部」ファイルをアップロードします。さらに、

1. セキュアネットワーク内でホストされているファイルに、外部ネットワークでホストされているファイルに対する外部データソースの参照を追加します。
2. セキュアファイルに、外部ファイルとの間でレコードを移動するためのスクリプトを追加します。
3. FileMaker Server でスクリプトをスケジュールするか、定期的にスクリプトを呼び出すロボットファイルを設定します。

部分的にホストする – ローカル ファイルをホストされているファイルと組み合わせる

ホストされているファイルへの接続に使用する iOS デバイス上のファイルには、ホストされているファイルとスクリプト(またはそのいずれか一方)への参照が必要です。ホストされているファイルを開く FileMaker Go のローカルファイルを使用する場合は、必ずセキュリティを考慮してください。また、ローカルで使用されるソリューションを設計する際には、iOS プラットフォームを念頭に置くと、インターフェースや操作性が向上します。



前述の通り、ソリューションのパフォーマンスの最適化については、「FileMaker How To Guide: 高速な iOS データベースアプリをデザインする」を参照してください。

ファイルがホストされ、適切なセキュリティが設定されれば、iPhone または iPad 上にインストールされている FileMaker Go からアクセスできるようになります。

ホストされているファイルにアクセスする

FileMaker Go は、[ファイルブラウザ]を介して、ホストされているファイルにアクセスします。iPad と iPhone の画面は異なりますが、動作は同じです。

1. モバイルデバイス上で FileMaker Go を開きます。
 - iPhone では、ボタンをタップして[ファイルブラウザ]を開きます。
 - iPad では、すぐに[ファイルブラウザ]が表示されます。
2. ホストを管理します - ホストは、FileMaker Pro または FileMaker Server のいずれかを共有しているコンピュータです。
 - a. ホストコンピュータがローカルネットワーク上で使用可能な場合、(iPhone の)[ローカルネットワークホスト]または(iPad の右上隅にある)[ローカルネットワークホスト]アイコンをタップします。
 - b. ホストがローカルネットワーク上で使用可能でない場合は...
 - i. iPhone の[ホストを追加...]または iPad の右上隅にある[ホストを追加]アイコンをタップして、ホストを追加します。
 - ii. ホストコンピュータの IP アドレスを入力します。ホスト名を追加することもできます。
 - iii. [保存]をタップします。
 - c. ホストの追加が完了していると、ホストは[お気に入りのホスト]パネルにリストされます。
3. [ローカルネットワークホスト]パネルまたは[お気に入りのホスト]パネルで、ホストをタップし、表示されたリストからファイルをタップします。「リモートファイルを開く」ダイアログにファイルが表示されないよう構成されている場合には、ファイル名を入力します。
4. アカウントとパスワードの入力が必要な構成のファイルでは、ログインダイアログが表示されます。アカウント名とパスワードを入力して、ファイルにアクセスします。

(別のオプションについては、前述の「URL を用いてファイルにアクセスする」のセクションを参照してください。)

ローカルファイルを用いて、ホストされているファイルにアクセスする

ホストされているファイルにユーザーが素早く便利にアクセスできるよう、ホストされているファイルに接続して開くためのローカルファイルを構成することができます。

1. FileMaker Pro を使用して、[ファイルを開く]スクリプトステップをもつスクリプトを、ローカルファイル内に作成します。
2. [指定:]ドロップダウンで、[FileMaker データソースの追加]を選択します。
3. [ファイルを開く]ダイアログボックスで[リモート...]をクリックし、ホストされているファイルを選択してから、[開く]をクリックします。
4. このスクリプトを保存し、ユーザーがタップするボタンに割り当てます。
5. ファイルを iOS デバイスに展開します。



6. FileMaker Go でそのファイルを開き、作成したボタンをタップします。するとホストされているファイルが開きます。アカウントとパスワードの入力が必要な構成になっている場合、ログインダイアログが表示されます。

オプション 3 – デバイスとホストで同期させる

FileMaker Go 上でローカル保存された FileMaker データベースファイルは、このデバイス上で完全に動作し、他のシステムとの同期は本来必要ありません。ただし、同期をオプションとして利用すると、一定の条件のもとでは便利な場合があります。単純な同期のシナリオは、以下の通りになります。

1. ホストされているファイルに、FileMaker Go で更新、追加されたレコードを保存するためのテーブルを追加します。
2. FileMaker Go で展開されるファイルに、ホストされているファイルからダウンロードされたレコードを保存するためのテーブルを追加します。同期プロセスでは、このファイルへのファイル参照や、ホストされているファイルのテーブルオカレンスを追加する必要はありません。
3. iOS デバイス上にファイルを追加し、インポートまたはデータリレーションシップを介して、ホストされているファイルと展開されているファイルの間でレコードを移動させるようスクリプトを作成します。この「第三者」のファイルには、ホストされているファイルと展開されているファイルのファイル参照と、両ファイルの「外部」テーブルすべてのテーブルオカレンスが必要です。

もちろん、必要に応じてレコードを編集したり削除したりして両方のファイル内のレコードを正確に一致させるような、より複雑で高度な同期手順を作成することもできます。

同期の詳細については、“*FileMaker Go 同期(仮題)*”を参照してください。また、単純な同期シナリオでも、やや高度な計画と FileMaker のスキルが必要になるため、FileMaker Business Alliance のコンサルタントへの相談も推奨されます。

まとめ

FileMaker Go for iPad および FileMaker Go for iPhone を使用すると、ローカルファイルとホストされているファイルの両方にアクセスすることができます。既に作成されたソリューションファイルがあれば、それを iOS デバイスのローカルファイルとして使用するのも、FileMaker Server や FileMaker Pro でホストして接続するのも簡単です。これによって、ホストされているファイルだけで作業するか、ローカルファイルだけで作業するか、両方を組み合わせて作業するかを、自由に選べるようになります。



著者について

Katherine Russell 氏は、オーストラリアのメルボルンにある NightWing Enterprises のシニアコンサルタントで、チームリーダーでもあります。Katherine Russell 氏について詳しくは、次のサイトに記載されています。

<https://fmdev.filemaker.com/people/katherinerussell>

© 2012 FileMaker, Inc. All rights reserved. FileMaker は、米国およびその他の国において登録された FileMaker, Inc. の商標です。ファイルフォルダロゴは FileMaker, Inc. の商標です。その他の商標はすべて、それぞれの所有者の財産です。製品の仕様および発売予定は予告なしに変更されることがあります。例に挙げた会社、組織、製品、ドメイン名、E メールアドレス、ロゴ、人、場所、描かれた出来事はすべて架空のものであり、実際の人や会社に類似していることがあっても、それは単なる偶然にすぎません。製品の仕様および発売予定は予告なしに変更されることがあります。

本文書は、一切の保証なしに「現状のまま」提供されるものであり、FileMaker, Inc. は明示または黙示を問わず、黙示の商品性の保証、特定の目的についての適合性、非侵害の保証を含め、またこれに限らず、一切の保証を否認します。FileMaker, Inc. またはそのサプライヤは、直接的損害、間接的損害、偶発的損害、結果的損害、営業利益の損失、懲罰的損害、特別損害を含め、たとえ FileMaker, Inc. またはそのサプライヤがそのような損害が生じる可能性について知らされていたとしても、いかなる損害についても一切の責任を負わないものとします。法域によっては、無保証あるいは責任制限を認めない場合があります。FileMaker は、本文書を予告なしにいつでも変更できるものとします。本文書はいずれ時代遅れとなるかもしれませんが、FileMaker, Inc. はこの情報を最新の情報にすることを約束するものではありません。

